

安全就業ニュース

2025年9月臨時増刊号

■ 特集 | 令和7年度 安全就業表彰団体

「安全就業優秀・優良<シルバー人材センター／連合>表彰を受賞して」

令和7年度「安全就業シルバー人材センター及び連合」各賞を受賞された全31団体の取り組み状況報告をまとめ、「臨時増刊号」として掲載いたしました。

各シルバー人材センターならびに連合本部におかれましては、本内容を参考としていただき、「安心・安全」なシルバー事業のさらなる発展にお役立てくださいますようお願いいたします。

受賞団体

優秀賞 【14団体】

山形市シルバー人材センター (山形県) <受賞3度目>	大野市シルバー人材センター (福井県)
会津若松市シルバー人材センター (福島県)	高浜町シルバー人材センター (福井県) <受賞2度目>
東海村シルバー人材センター (茨城県) <受賞2度目>	須高広域シルバー人材センター (長野県)
熊谷市シルバー人材センター (埼玉県)	岡崎市シルバー人材センター (愛知県)
成田市シルバー人材センター (千葉県)	竜王町シルバー人材センター (滋賀県) <受賞2度目>
茅ヶ崎市シルバー人材センター (神奈川県) <受賞3度目>	岡垣町シルバー人材センター (福岡県)
高岡市シルバー人材センター (富山県)	いちき串木野市シルバー人材センター (鹿児島県)

優良賞 【13団体】

旭市シルバー人材センター (千葉県)	明石市シルバー人材センター (兵庫県)
若狭町シルバー人材センター (福井県)	小野市シルバー人材センター (兵庫県)
阿南広域シルバー人材センター (長野県)	岩美町シルバー人材センター (鳥取県)
春日井市シルバー人材センター (愛知県)	下関市シルバー人材センター (山口県)
名古屋市シルバー人材センター東部支部 (愛知県)	さつま町シルバー人材センター (鹿児島県)
犬山市シルバー人材センター (愛知県)	和泊町シルバー人材センター (鹿児島県)
鈴鹿市シルバー人材センター (三重県)	

連合優秀賞 【1団体】

富山県シルバー人材センター連合会

連合優良賞 【3団体】

福島県シルバー人材センター連合会
新潟県シルバー人材センター連合会
愛知県シルバー人材センター連合会





I 山形市の概要

山形市は、山形県の南東部に位置し、蔵王に源を発する馬見ヶ崎川の扇状地に位置しています。東には蔵王連峰が連なり、市街地には田園地域が広がっています。明治22年4月1日に市制施行し、平成31年4月1日には中核市に移行しました。5月には日本三大植木市の一つとされている「薬師祭植木市」、8月には東北四大祭りの一つで、山形を代表する「山形花笠まつり」が開催されます。9月には秋の風物詩として知られている「日本一の芋煮会フェスティバル」が開かれるほか、ラーメン消費額は3年連続日本一で、個性豊かで多種多様なラーメンがあることで有名です。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 安全就業推進委員会

会員9名、外部理事1名、職員2名で構成する安全就業推進委員会を設置し、年4回の委員会を開催しています。安全就業を推進し、事故「ゼロ」を目指す活動を行い、会員の安全意識の高揚のため、啓発活動を行っています。

(2) 事故ゼロを目指した活動の推進

全期間を通して安全就業を推進していますが、安全・適正就業強化月間である7月においては、屋外作業を中心に熱中症予防の周知や安全保護具着用の徹底、「緊急連絡カード」携帯の徹底を図るために、夏期パトロールを実施しています。「安全就業推進委員会だより」を全会員に配布し、特に熱中症予防のために、体調管理に十分注意し、適度な休息と水分補給をとるように注意喚起を行っています。

また、抜き打ちの不定期パトロールを11月に行い、屋内管理等を中心に対応マナー、健康管理、「緊急連絡カード」携帯の徹底を図るために安全パトロールを行っています。

その他にも、繁忙期前に重点職群グループ全員に安全就業についてのミーティングを開催して、安全就業の徹底に取り組んでいます。

(3) 安全講習会の実施

毎年テーマを決めて、安全に関する講演会や体験発表会を開催し、安全意識の啓発に努めています。

(4) 安全標語の募集

会員から安全標語の募集を行って優秀作品の選考・表彰を実施し、会員の安全意識の向上を図っています。

3 今後に向けて

今回で3度目の受賞となります。表彰を受けて、今後も更なる安全就業の意識徹底を図り、各種研修会等の充実に努め、「事故ゼロ」を目指して取り組んでまいります。



センターの概要(令和6年度)

- ① 会員数 1,300人（男性899人、女性401人）
- ② 粗入会率 1.44%
- ③ 就業率 83.5%
- ④ 就業実人員 1,085人（請負・委任 881人、派遣事業 229人）
- ⑤ 就業延人員 147,205人日（請負・委任 112,050人日、派遣事業 35,155人日）
- ⑥ 契約金額 6億7,284万円（請負・委任 5億3,142万円、派遣事業 1億4,142万円）

公益社団法人 会津若松市シルバー人材センター（福島県）

I 会津若松市の概要

会津若松市は、福島県の西部に位置しており、磐梯山、猪苗代湖など豊かな自然に囲まれた自然景観に恵まれたまちです。

また、江戸時代には会津藩の城下町として栄え、幕末には戊辰戦争の主戦場となり、鶴ヶ城、飯盛山等に多くの観光客が訪れます。東山温泉、芦ノ牧温泉などの温泉観光、酒、漆器等の地場産業などでも知られています。

IC 関連の最先端産業や IT 関連産業の創設にも取り組んでいます。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 安全・適正就業対策委員会

当センターでは、理事3名を含めた会員9名と職員2名からなる安全・適正就業対策委員会を設置しています。また、委員会下部組織として地区安全・適正就業対策員を8名選任し、年3回の会議を開催しています。会議では、基本計画に基づき年間実施計画を作成、「事故ゼロ」を目指し実施状況の検証を行っています。

(2) 安全パトロールの実施

庭木の剪定・雪囲い作業、除草作業などの屋外作業を中心に、作業が多くなる5月から12月にかけて安全・適正就業対策員と地区安全対策員による毎月2回の安全パトロールを実施しています。パトロールでは、現場ごとのチェックシートに基づいて作業時の安全保護具の着用確認、器具の点検、整理整頓等に不備があった場合はその場で指導しています。また、それを報告書にまとめ会員の地区会議等で報告しています。

(3) 安全標語の募集

3年に1度、安全意識を高めるために安全標語を募集しています。センターの安全スローガンとして、3年間会報や事務局だよりに掲載するなど、啓発に取り組んでいます。

(4) 各種講習会の実施

毎年2月に安全就業、交通安全、健康管理について講習会を開催しています。安全就業の講習は、講師に消防署の職員を招き AED の使い方、熱中症対策、火災予防等を学んでいます。交通安全に関しては警察署の協力を得て高齢者の交通安全教室を行い、安全に就業するには、会員が健康な状態であることが大切なことから、健康教室では、健康運動指導士による健康体操を行っています。



センターの概要(令和6年度)

- ① 会員数 491 人（男性 325 人、女性 166 人）
- ② 粗入会率 1.1%
- ③ 就業率 88.4%
- ④ 就業実人員 531 人（請負・委任 434 人、派遣事業 97 人）
- ⑤ 就業延人員 55,592 人日（請負・委任 46,677 人日、派遣事業 8,915 人日）
- ⑥ 契約金額 2億 9,274 万円（請負・委任 2億 4,056 万円、派遣事業 5,219 万円）



I 東海村の概要

東海村は、茨城県の県庁所在地である水戸市の北東約 15kmに位置し、東京からは約 110kmの距離にあります。東は太平洋に面し、西は那珂市、南はひたちなか市、北は久慈川を挟んで日立市と接しています。村内にはJR常磐線東海駅や常磐自動車道東海スマートインターチェンジがあり、国内外に就航路線を有する茨城空港へも高速道路を利用し45分の距離にあることから、高い交通アクセスが確保されています。また年間を通じて温暖な気候に恵まれており、久慈川の南側と真崎浦、細浦などは美しい水田地帯になっています。台地には畠地と平地、林が広がっています。水と緑の豊かな村であるとともに、日本で初めて原子力の火が灯った村ということもあり、原子力事業所が多く立地されており、今年で村発足 70 周年目を迎えました。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 安全部会の開催

理事2名、会員 5 名、事務局長 1 名の計 8 名からなる安全部会を設置し、年間の事業計画に基づき、毎月1回の朝礼（ラジオ体操）及び安全パトロールを行い、問題点や事故発生時の原因分析と再発防止に向けた対策などについて協議しています。そのほか先進センターの視察や年3回「安全だより」を発行しています。

(2) 安全パトロールの実施

安全部会では、月1回の安全パトロールを実施しています。主として屋外作業（植木剪定・伐採・刈払い・除草）の現場を安全部会員全員で巡回しています。また、現場ごとにチェックシートに基づいて服装や保護具、そのほか飛び石の防護（養生）対策、三脚の使用状態などを注意深く確認して、事故防止に取り組んでいます。

(3) 各種講習会の実施

刈払い講習会、交通安全講習会、安全運転講習会、救急救命講習会等を開催して、会員のスキルアップを図り、安全就業並びに安全運転に対する意識の向上に取り組んでいます。

(4) 夏場の熱中症予防に対する取り組み

会員の健康管理の面から、屋外作業（植木剪定・伐採・刈払い・除草）において、環境省の熱中症警戒アラート等が発令された場合には、原則、作業を中止するとともに、8月の1ヶ月は作業を休止して、就業災害防止の一助としています。



3 今後に向けて

この度は2度目の表彰を受け、これからも更なる安全対策を講じ、無事故・無災害を目指して取り組んでまいります。

センターの概要（令和 6 年度）

- ① 会員数 237 人（男性 146 人、女性 91 人）
- ② 粗入会率 2.0%
- ③ 就業率 95.4%
- ④ 就業実人員 233 人（請負・委任 180 人、派遣事業 53 人）
- ⑤ 就業延人員 20,247 人日（請負・委任 15,560 人日、派遣事業 4,687 人日）
- ⑥ 契約金額 1 億 1,444 万円（請負・委任 8,392 万円、派遣事業 3,051 万円）

公益社団法人 熊谷市シルバー人材センター（埼玉県）

I 熊谷市の概要

熊谷市は埼玉県の北部に位置し、北に利根川、南に荒川を有しJR上越・長野新幹線が通る交通の要衝で江戸時代から宿場町として栄えた商業の街であり、日本一暑い町としても全国に知られています。

ワイルドナイスの本拠地である熊谷ラグビー場、国宝妻沼聖天山、アニメ「ブルーサーマル」の舞台である利根川グライダー滑空場、国営武蔵丘陵森林公園など多くの観光施設があります。

また、暑い熊谷の夏を彩るうちわ祭りが、7月20日・21日・22日の3日間、60万人のお客様をお迎えし開催されます。食の文化も盛んで、古くから肥沃な大地で小麦の栽培が行われており、市内の食事処で特産熊谷うどんを食べることができます。「あつい町」熊谷は熱意もおもてなしも熱い気持ちがこもっています。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 安全・適正就業委員会と推進員の活動

安全・適正就業委員6名、推進員11名で構成。年4回合同会議を開催し、「事故・クレームゼロ」を継続目標に掲げ、すべての作業について安全を最優先とし、現場の巡回パトロールをはじめ、標語の募集、安全大会の開催に取り組んでいます。

(2) 巡回パトロールの実施

安全・適正就業委員、推進員が3名で毎月パトロールを実施。7月から9月までは2班編成で、特に危険性の高い除草作業や植木作業の現場で使用機器、防護ネット、安全装具の適正使用を確認し、指導を行っています。

(3) 安全・適正就業推進大会

毎年1月に安全・適正就業推進大会を開催し、標語の表彰と安全宣言・力合と自転車ヘルメット着用宣言を行っています。安全はまずは自身の健康からであるため、フレイル予防健康づくり教室の指導員「サクラック」のメンバーが、栄養、体操の指導を行い、参加者は適度なウォーミングアップで体をほぐし、熊谷警察署からの安全講話で安全意識の高揚を図っています。



3 今後に向けて

この度の受賞は、安全・適正就業委員・推進員の地道な活動と全会員の安全就業の賜物と感謝しています。日本一暑い町では熱中症の危険性が高いこともあり、その対策を重点的に取り組み、高齢会員の安全確保に努めています。

今後もこの賞を励みに、「事故・クレームゼロ」を常に目標として取り組んでまいります。

センターの概要（令和6年度）

- ① 会員数 1,067人（男性 761人、女性 306人）
- ② 粗入会率 1.7%
- ③ 就業率 80%
- ④ 就業実人員 935人（請負・委任 852人、派遣事業 83人）
- ⑤ 就業延人員 103,075人日（請負・委任 94,136人日、派遣事業 8,939人日）
- ⑥ 契約金額 5億3,931万円（請負・委任 4億7,607万円、派遣事業 6,323万円）

公益社団法人 成田市シルバー人材センター（千葉県）

I 成田市の概要

成田市は、千葉県の北部中央に位置し、北は利根川を隔てて茨城県と接し、西は県立自然公園に指定されている印旛沼と接しています。

市の西側、東側にそれぞれ中小河川が流れ、それらを取り囲むように広大な水田地帯や肥沃な北総台地の畠地帯が広がっています。北部から東部にかけての丘陵地には工業団地やゴルフ場が点在し、南には日本の空の玄関口、成田国際空港があります。

また、市の中心部は1000年以上の歴史がある成田山新勝寺の門前町として栄え、毎年多くの参詣者でぎわいします。市内にはほかにも数多くの寺社が点在しており、豊かな水と緑に囲まれた伝統的な姿と国際的な姿が融合した都市です。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 安全・適正就業委員会

当センターでは、理事3名、会員7名、事務局職員1名の計11名で構成する安全・適正就業委員会を設置し、年4回、委員会を開催しています。委員会では、安全・適正就業推進計画を策定し、安全パトロールの実施計画、安全講習会の企画等のほか、事故発生原因の分析と再発防止に向けた対策の協議、検討を行っています。

(2) 安全パトロールの実施

安全・適正就業委員及び事務局職員により、年6回安全パトロールを実施。パトロール先は、屋外・屋内問わずすべての就業先を対象としており、独自のチェックシートによる安全確認に加え、就業状況の聞き取りにより安全への配慮等を点検し、事故防止への情報提供と注意を呼び掛けています。

(3) 各種講習会の開催

植木班、除草班では、主に新規就業会員を対象とした作業時の安全講習を随時実施し、器具機材の適正使用などの技術・知識の習得を図っているほか、特に除草班は、毎週1回役員会議において、就業計画の策定と事故等に関する情報共有を行っています。また、通学路防犯広報啓発活動従事者を対象に、警察署の協力のもと市内自動車教習所にて、交通安全に関する座学、実技講習を年1回開催し交通事故防止の徹底に努めています。その他、女性部会を中心に健康づくり講習会を開催しており、健康面からも適正就業に取り組んでいるところです。



(4) その他の取り組み

全シ協から提供される「安全就業ニュース」をはじめ、身近な事故の事例を「Smile to Smile」でタイムリーな情報として提供し、会員の安全・適正就業に関する意識の高揚に努めています。

3 今後に向けて

以上の記述のとおり、当センターでは特徴のある活動はしていませんが、過去3年間の賠償、傷害事故件数は年々減少傾向であり、今後も会員に対してこまめに情報提供を行い、繰り返し呼び掛けを行いながら、センターが一丸となって安全就業の確保に取り組んでまいります。

センターの概要(令和6年度)

- ① 会員数 495人（男性 378人、女性 117人）
- ② 粗入会率 1.0%
- ③ 就業率 88.7%
- ④ 就業実人員 439人（請負・委任 423人、派遣事業 63人）
- ⑤ 就業延人員 40,985人日（請負・委任 37,209人日、派遣事業 3,776人日）
- ⑥ 契約金額 2億4,204万円（請負・委任 2億607万円、派遣事業 3,597万円）



優秀賞

公益社団法人 茅ヶ崎市シルバー人材センター（神奈川県）

(3度目の受賞)

I 茅ヶ崎市の概要

茅ヶ崎市は神奈川県の中央南部に位置する、相模湾に面した都市です。人口は約24万5千人、面積は35.7km²のコンパクトな街で、南は海、北は里山、中央には茅ヶ崎駅を中心とした商業エリアが広がる、自然環境と都市機能がバランスよく配置された市となっています。

湘南エリアの中心に位置する茅ヶ崎市では、夏になると海水浴やサーフィン等を目的とした観光客が毎年多く訪れます。今年の7月には、湘南エリアで初めての道の駅がオープンし、新たな観光拠点として期待を集めています。

また、「サザンオールスターズ」の桑田佳祐さんや名誉市民の加山雄三さんの出身地で、「2000年茅ヶ崎ライブ」など音楽文化の発信地としても知られています。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 安全管理委員会の活動

当センターでは、会員7名、職員5名の12名からなる安全管理委員会を設置しており、年に3回の安全管理委員会を開催しています。安全管理委員会では、「会員の就業中の事故分析、事故防止対策の調査研究」、「安全就業基準に沿った対策措置の検討と推進」、「巡回指導の実施結果の調査・審議と、必要に応じた安全対策等の見直し」、「会員の健康と安全就業に関する事項の調査・審議と、対策等の検討・構築」、「就業マニュアルの策定と会員への周知」等の活動を行い、事故のない安全就業を目指しています。

(2) 安全巡回指導の実施

安全管理委員会委員により、年に7回の安全巡回指導を実施しています。安全巡回指導では、安全就業基準等の遵守状況を確認するチェックリストに基づき安全環境に関する点検を行い、巡回時の結果について、不安全行動が見られるような場合には、現場での直接指導または巡回指導結果報告書による注意や啓発を行っています。



(3) 安全講習会の開催

年に1回、定時総会終了後に全会員に向けて安全講習会を実施しています。令和7年度は自転車運転に関する安全講習を開催しました。また、植木剪定作業および除草作業会員向けの作業講習会を年に1回、2日間かけて実施し、はしご・脚立や草刈り機等の用具の安全な使用方法について確認する機会を設けています。

3 今後に向けて

今回、当センターでは3度目の受賞となります。日頃より会員一人ひとりが安全就業を心掛けてきた成果だと考えています。このところ酷暑など就業環境には厳しいものがありますが、体調管理を徹底するとともに、今後も「事故ゼロ」を目指し、安全就業に取り組んでまいります。

センターの概要(令和6年度)

- ① 会員数 905人（男性 682人、女性 223人）
- ② 粗入会率 1.10%
- ③ 就業率 78.8%
- ④ 就業実人員 713人（請負・委任 586人、派遣事業 170人）
- ⑤ 就業延人員 72,920人日（請負・委任 53,666人日、派遣事業 19,254人日）
- ⑥ 契約金額 3億9,172万円（請負・委任 2億9,674万円、派遣事業 9,498万円）

公益社団法人 高岡市シルバー人材センター（富山県）

I 高岡市の概要

高岡市は、本州のほぼ中央で日本海に面する富山県の北西部に位置し、人口約16万人が暮らす歴史と文化の息づくまちです。1609年、加賀前田家第2代当主・前田利長が開いた城下町であり、当時の面影が残る高岡古城公園や景観が美しいまち並みがあり、2つの国宝「瑞龍寺」「勝興寺」をはじめとして、数多くの文化財が残されています。ユネスコ無形文化遺産に登録されている「高岡御車山祭」に代表される伝統的なお祭りも多数開催されています。

また、とても自然豊かな地域で、日本の渚百選に選ばれた雨晴海岸からは、海越しに3000メートル級の立山連峰を眺められる絶景スポットとして有名です。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 安全・適正就業推進委員会の活動

当センターでは、安全委員6名および職員4名の計10名による「安全・適正就業推進委員会」を設置し、継続的に年4回開催してまいりました。委員会では、事故事例の共有や事故再発防止策の検討、安全就業研修会の計画など、就業環境の安全性向上に努めています。

(2) 現場パトロールの実施

剪定・草刈り・除草・雪吊りといった現場に対して、年4回の安全パトロールを実施しています。令和6年度も計画通り4回全て実施し、無通告での随時パトロールも行いました。パトロールでは、「県内共通取組」の周知や、熱中症予防、転倒事故防止、指差し呼称の徹底などを重点的に確認。現場での声かけや保護具の点検を通じて、実践的な安全意識の向上を図っています。



(3) 安全情報の周知と資料提供

剪定班・草刈り班・除草班へは、必要な安全情報を都度提供。また、安全資料を毎月発行している事務局によりに掲載し、全会員に安全就業への関心を促しています。

(4) 連合会主催行事への積極的な参加

富山県シルバー人材センター連合会主催の安全・適正就業推進大会や安全・適正就業研修会に事務局職員が参加し、県内の事故事例や安全についての好事例を共有。センター内でもその内容をフィードバックし、担当職員から会員への周知も行き高い安全意識を保つよう努めています。

(5) 安全就業研修会の開催

例年2月には、会員を対象とした安全就業研修会を開催。事故ゼロをめざす意識を高めるとともに、講師に専門家を招き、講演・アドバイスをいただいております。事例を通じた具体的なリスク回避策を学ぶ機会としています。

3 今後に向けて

今回の受賞は、センター全体で地道に取り組んできた安全活動の成果であると思います。しかし、暑さによる体調不良や冬季の転倒、飛び石事故など、注意すべきポイントは常に存在します。「安全には終わりがない」を合言葉に、今後もパトロールや研修の充実を図りながら、「事故ゼロ」に向けて会員・役職員一丸となって取り組んでまいります。

センターの概要(令和6年度)

- ① 会員数 971人（男性 539人、女性 432人）
- ② 粗入会率 1.49%
- ③ 就業率 82.1%
- ④ 就業実人員 797人（請負・委任 702人、派遣事業 95人）
- ⑤ 就業延人員 100,379人日（請負・委任 80,429人日、派遣事業 19,950人日）
- ⑥ 契約金額 4億9,272万円（請負・委任 4億58万円、派遣事業 9,214万円）

公益社団法人 大野市シルバー人材センター（福井県）

I 大野市の概要

福井県大野市は九頭竜川の源流域に位置し、日本百名山「荒島岳」や名水百選「御清水（おしうず）」に代表される緑豊かな自然と食に恵まれた、歴史・文化・伝統が息づく魅力あふれるまちです。また大野市は、昔から今日に至るまで、お互いに助け合う習慣や、地域との絆を大切に育んできた「結（ゆい）」の精神がたくさん詰まった「結の故郷」として位置づけられています。

この風土の中で昭和63年に設立された当センターは、間もなく40周年を迎えるなか、女性会員を中心となり六次産業化に取り組むなど、「生涯現役」で誇りをもって働く機会を提供し、独自事業売上げ6年連続全国1位を達成しています。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 安全・適正就業推進大会の開催

7月5日に有終会館にて大会を開催し、40名が参加しました。

当日は、大野市交通指導員による「頭と体を使った右脳トレーニング」や連合会の安全パトロール指導員による講習を実施し、交通安全および就業時の安全意識の向上を図りました。

(2) 安全・適正就業部会員によるパトロールの実施

屋内外の就業現場において、部会員が安全・適正就業パトロールを実施しました。連合会との合同パトロールも含め、年間36箇所で実施し、「安全就業チェックリスト」に基づき、服装・安全保護具の着用状況、器具・道具の使用状況、就業場所の安全確保などを点検しました。



(3) 安全意識の啓発

瓦版の「安全だより」コーナーにて、事故の発生状況や作業時の注意事項を掲載し、会員の安全意識の向上を図りました。また、交通安全では、標語入り立て看板コンクールへの参加、「チャレンジ250」への会員15名の参加、連合会主催の「テレマティクス TAG (GPS活用)」による安全運転診断へ5名が参加しました。さらに、公用車を使用する際は、出発前にアルコール検知器による確認を徹底し、酒気帯び運転の防止に努めています。

(4) 健康増進活動の推進

会員が健康で安心して働けるよう、10月31日に健康大会を開催し、会員26名が参加しました。

会員が講師となり健康体操を実施し、日常生活における健康意識の向上を促しました。

3 今後に向けて

これまで、センター職員一人ひとりが安全意識の高揚を図ってきたこと、そして、会員と共に安全について考え、行動してきた結果が無事故継続につながっていると思います。今後も安全意識を会員と共有し、安心して就業できる環境整備に努めていきます。さらに、シルバー会員就業支援事業を活用した「アシストスーツ」の導入による新しい働き方や、酷暑による熱中症への注意喚起・対策も怠ることなく、受賞を機に、より一層の安全就業に取り組んで参ります。

センターの概要(令和6年度)

- ① 会員数 567人（男性 252人、女性 315人）
- ② 粗入会率 4.18%
- ③ 就業率 100%
- ④ 就業実人員 583人（請負・委任 536人、派遣事業 150人）
- ⑤ 就業延人員 87,214人日（請負・委任 73,346人日、派遣事業 13,868人日）
- ⑥ 契約金額 3億1,002万円（請負・委任 2億4,145万円、派遣事業 6,857万円）

公益社団法人 高浜町シルバー人材センター（福井県）

I 高浜町の概要

高浜町は福井県の最西端に位置し、南東はおおい町、西は京都府と接し、南西の飯盛山脈を背にして北は日本海「若狭湾国定公園」に面し、行政区域は7,240haとなっています。

町内は、4つの地区（東から和田地区、高浜地区、青郷地区、内浦地区）にわかれています。和田地区から高浜地区を経て青郷地区に至る8kmは白い砂浜の海岸と松林など変化に富み、夏は関西・中京方面からの海水浴客でにぎわいを見せています。町の西部にある青葉山は標高693mで、その雄姿は若狭富士と呼ばれています。町の70%は山林で、日本海に注ぐ河川の流域に耕地約520haが帯状をなし、点在しています。

平成28年4月には、アジアで初めてビーチ・マリーナの国際環境認証ブルーフラッグを取得しました。また、日本の棚田百選、日本の夕陽百選、日本の快水浴場百選と3つの百選に選定される風光明媚な約1万人の海辺の町であります。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 安全・適正就業委員会

当センターでは、理事3名を含めた会員7名と職員1名の計8名からなる安全・適正就業委員会を設置し、安全・適正就業委員会規程に基づき年間4回委員会を開催しています。また、就業上問題となる事象やトラブルなどが発生した時には、臨時の委員会を開催し、その事象の問題点や原因などを特定し、対策を講じています。

(2) 安全パトロール

屋外作業が多くなる時期には理事長、副理事長、事務局長の幹部三役が現場作業を視察し、安全作業への呼びかけと、安全パトロールを行っています。また連合会の安全指導員に声掛けし、定期的に現場パトロールを行っています。パトロール終了後、反省会を行い当日の改善指導項目を確認し、安全作業の一助としています。

(3) 安全講習会

年度が切り替わる前の3月に、毎年2日にわたって安全講習会を開催し、次年度の安全作業の基本について講習会の場で指導を行っています。また、刈払機による飛び石事象を受け、刈払機安全講習会を実施し、安全な作業と石が飛びにくい刃の活用について講習を行い安全意識の高揚に努めています。

3 今後に向けて

この度の表彰を受け、驕ることなく更なる安全意識の高揚と安全就業体制の充実を図り、センター事故発生ゼロを目指して真摯に取り組んでまいります。



センターの概要（令和6年度）

- ① 会員数 230人（男性 146人、女性 84人）
- ② 粗入会率 6.0%
- ③ 就業率 96.5%
- ④ 就業実人員 222人（請負・委任 209人、派遣事業 25人）
- ⑤ 就業延人員 19,522人日（請負・委任 17,086人日、派遣事業 2,436人日）
- ⑥ 契約金額 1億378万円（請負・委任 9,237万円、派遣事業 1,141万円）

公益社団法人 須高広域シルバー人材センター（長野県）

I 須高広域の概要

当地域は、長野県の善光寺平千曲川の東側に広がる扇状地に位置し、国の伝統的建造物群保存地区に選定される蔵づくりの街並みや、日本の滝100選の米子大瀑布で名を馳す須坂市、栗菓子専門店の老舗が集い、浮世絵師の葛飾北斎が描いた天井絵「鳳凰図」で名を馳す小布施町、七味温泉、五色温泉など多くの温泉があり、ユネスコエコパークに登録されて有名な高山村の3市町村をエリアとし、ブランド名をフルーツハリウッドとするリンゴ、ぶどう、桃、ネクタリン、梨など果樹産地でもあり、風土を活かした博物館、美術館などの観光資源も豊富に揃っている地域です。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 安全委員会の活動

当センターの安全委員会は、理事6名、会員8名、職員3名の計17名で構成され、年間事業計画に基づき活動をしております。「事故ゼロは、健康管理から（身も心も健康に）」を第一に掲げ、つぎの活動に取り組んでおります。



ア 「安全はすべてに優先する」を基本に、安全就業基準の遵守と安全就業ミーティングの完全実施、就業ミーティングシート活用の徹底、安全装備使用の徹底、健康診断受診促進と健康体操の奨励など、日々の活動や安全ニュースの発行を通じ、会員の安全就業意識の高揚に努めること。

イ 交通事故・損害賠償事故の発生件数ゼロを目指して、安全委員会を中心に、理事及び委員による就業現場の安全パトロールの実施など、あらゆる防止策を徹底するとともに、安全基準による安全指導・助言を行うこと。

ウ 安全委員会による事故検証を実施し、以後の安全就業の推進に活用すること。

エ 除草会員などでKYT（危険予知訓練）を実施するほか、安全就業等に関する各種研修、講習会などを実施し安全就業に努めること。

(2) KYT（危険予知訓練）実施状況

近年多発している飛び石事故の対策を優先して実施することとし、安全委員会では事故のたびに検証を行ってきましたが、その中で「刈払機でも大丈夫だろう」という判断に至った結果事故につながった事案の原因のほとんどは、ヒューマンエラー（人間の不完全な行動）によるものでした。そこで、草刈り班の会員に対象をしぼって、問題解決能力を高める実践方式の講習会を開催しました。日頃の作業の振り返りとなりとても良い研修会となりました。

3 今後に向けて

この度いただいた安全就業優秀賞を励みとし、安全委員会では、会員の安全に対する意識の高揚に努め、より一層啓発活動に取り組みたいと思います。

センターの概要（令和6年度）

- ① 会員数 608人（男性 385人、女性 223人）
- ② 粗入会率 2.3%
- ③ 就業率 88.3%
- ④ 就業実人員 599人（請負・委任 537人、派遣事業 62人）
- ⑤ 就業延人員 61,547人日（請負・委任 55,510人日、派遣事業 6,037人日）
- ⑥ 契約金額 3億5,358万円（請負・委任 3億1,804万円、派遣事業 3,554万円）

I 岡崎市の概要

愛知県のほぼ真ん中にある岡崎市は、あらゆる意味で平均的でバランスのとれた都市です。岡崎市は、矢作川と市内を流れる乙川（菅生川）が交わったところに「岡崎城」があり、日本の基礎を築いた徳川家康公の生誕地です。

また、伝統的な物産品として全国的に有名な「八丁味噌」、墓石・燈籠などの石工業でも知られています。

人口 38 万人強の中核都市「岡崎」は、森林が市域の6割を占め緑豊かであり、市内には公園・神社・仏閣なども多く、1年を通じて市内どこにいても季節を感じることのできる典型的な日本の街と言えます。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 研修安全委員会

当センターでは、理事 3 名、会員 7 名と職員 3 名の計 13 名からなる研修安全委員会を設置しています。主だった職種から会員を選任し、年 12 回程度の委員会を開催しています。当センターで起きた傷害・賠償事故の報告をし、内容・原因・再発防止の検討をしています。また、安全パトロール、研修企画、安全スローガンの募集をし、会員の安全意識の向上を図っています。

(2) 安全パトロールの実施

年に 2 回パトロールを実施しています。前半は、剪定・除草を主に、後半はカート整理業務を主に実施し、令和 6 年度は 17 か所のパトロールを行いました。パトロールではチェックシートを使い、安全への配慮、就業現場状況、服装、装備等を点検しながら、不備があった場合は、その場で指導を行っています。

(3) 各種講習会の開催

除草安全講習では、飛散防止ネット・飛石抑制刈払機の展示、現場での使用状況の点検を行いました。交通安全については、運転適性研修を実施し、交通安全講習後、筆記による適性診断を行いました。

また、カート整理業務を行う会員については、就業前にカート研修を受講し、お客様への対応、カートの搬送時の注意等の研修内容を理解した上で「安全就業宣言書」を提出した後、「講習受講証明書」を発行しています。

3 今後に向けて

この度の受賞を受け、更に会員一人ひとりの安全就業への意識を高め、今年こそ「事故ゼロ」を目指し取り組んでまいります。



剪定作業（低所の枝切り）



カート整理（作業中風景）

センターの概要（令和 6 年度）

- ① 会員数 1,014 人（男性 808 人、女性 206 人）
- ② 粗入会率 0.86%
- ③ 就業率 94.2%
- ④ 就業実人員 955 人（請負・委任 895 人、派遣 84 人）
- ⑤ 就業延人員 102,221 人日（請負・委任 93,075 人日、派遣 9,146 人日）
- ⑥ 契約金額 5 億 8,464 万円（請負・委任 5 億 2,208 万円、派遣 6,256 万円）



I 竜王町の概要

竜王町は、琵琶湖と鈴鹿山系の間に開ける湖東平野の中央に位置し、2つの竜王山を背景に、大地の豊かな恵みを天授する郷として発展してきました。

水田では良質な近江米、果樹園では四季折々のフルーツ、そして肉質・味ともに研さんを重ねてきた近江牛など、農畜業が盛んな町であり、また、名神高速道路の竜王インターチェンジがあることから、交通の利便性を活かし、工業系技術系企業や大型商業施設等が立地しており、農商工観光の魅力が揃ったまちです。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 安全・適正就業委員会

当センターでは、理事2名を含めた会員6名と職員2名の計8名からなる安全・適正就業委員会を設置し、安全・就業推進計画に基づき毎月開催しています。全国、県内の事故発生状況等の説明、「安全就業ニュース」を活用し、事故事例による注意喚起や危険予知活動（KY活動）を実施しています。

(2) 安全パトロールの実施

請負・派遣就業状況の確認のため発注者の方にもご協力を頂いて、安全・適正就業委員会実施日に毎月1～2か所を目途に安全パトロールを実施しています。その際、安全啓蒙など現場への声掛けはもとより、現場就業環境の危険個所および危険作業の確認、作業者の声を聴いてより良い職場環境づくりに生かしています。

(3) 安全適正講習会の実施

全会員を対象に講習会を年2回開催し、必須の講習会として就業する会員には出席を促し、就業中の安全・健康管理・交通安全を主体にした内容で継続して実施しています。全員参加を図るため、開催日の工夫や就業スケジュールの調整等も行っています。

(4) 各種特別教育の受講推奨

チェーンソーによる伐木等特別教育・刈払機（草刈り機）取扱安全衛生教育等の安全教育の受講を推奨し、会員の知識やスキルの向上、安全意識の高揚に取り組んでいます。

(5) 一人就業の原則禁止化

事故発生時に迅速な対応を図るべく一人就業は原則禁止とし、事故の重大化につながるリスクの軽減に取り組んでいます。



センターの概要（令和6年度）

- ① 会員数 219人（男性145人、女性74人）
- ② 粗入会率 5.16%
- ③ 就業率 89.5%
- ④ 就業実人員 196人（請負・委任171人、派遣事業97人）
- ⑤ 就業延人員 22,484人日（請負・委任14,604人日、派遣事業7,880人日）
- ⑥ 契約金額 1億3,405万円（請負・委任8,541万円、派遣事業4,864万円）

公益社団法人 岡垣町シルバー人材センター（福岡県）

I 岡垣町の概要

岡垣町は、福岡県の北部、北九州市と福岡市のほぼ中間に位置する人口約3万2千人の海と山に囲まれた自然豊かな町です。北部は響灘に面し、玄海国定公園の一部である三里松原が美しい海岸を形成しています。また南西部には「おいしい水」の水源となっている山々が連なり、自然環境に恵まれています。また、JR鹿児島本線や国道3号線など交通の主要幹線が通り、福岡市や北九州市へのアクセスも優れています。

都会のすぐそばにありながら、暮らしがまるごと自然と一緒に毎日。「ゆったりいいとこ おかげさまで」をブランドテーマに、「自然と共生する あわせ実感都市 岡垣」の実現に向けた街づくりが進められています。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 安全就業推進委員会の開催

本センターでは、理事2名を含めた会員8名と職員1名からなる安全就業推進委員会を設置し、年6回の委員会を開催しています。委員会では、年間の安全対策実施計画の策定や、事故発生時の原因分析と再発防止に向けた対策を協議・検討しています。また、安全標語やヒヤリ・ハット事例の募集、毎月発行の「事務局だより」に本委員会からの連絡を掲載するなど会員の安全意識の向上に努めています。

(2) 安全パトロールの実施

例年、7月から3月に理事長、安全就業推進委員会及び事務局で毎月1回の安全パトロールを実施しています。特に9月は本センターでの安全就業強化月間と定め、安全パトロールを9月中に3回実施し、昨年度は合計で11回のパトロールを実施しました。パトロールでは現場毎のチェックシートに基づいて作業内容を確認し、現場で気付いた内容の声掛けや指摘など、その場で就業会員に伝えていくことで、事故発生の防止と安全啓発に取り組んでいます。

(3) 他の取り組み

チェーンソー・刈払機の講習会や草刈り班への安全講習会、交通安全講習会などを開催し、会員の知識や技能の向上と安全意識の醸成に向けて取り組んでいます。

また、健康講演会を開催し、会員の健康づくりを推進しています。



3 今後に向けて

今後も、会員の健康増進と安全就業体制の充実、更なる安全意識の向上を図り、「事故ゼロ」を目指して取り組んでまいります。

センターの概要（令和6年度）

- ① 会員数 335人（男性 221人、女性 114人）
- ② 粗入会率 2.7%
- ③ 就業率 84.7%
- ④ 就業実人員 284人（請負・委任 267人、派遣事業 44人）
- ⑤ 就業延人員 37,369人日（請負・委任 33,866人日、派遣事業 3,503人日）
- ⑥ 契約金額 1億8,652万円（請負・委任 1億7,268万円、派遣事業 1,384万円）

公益社団法人 いちき串木野市シルバー人材センター（鹿児島県）

1 いちき串木野市の概要

いちき串木野市は、平成17年10月に旧串木野市・旧市来町の1市1町が合併し、今年で市制20周年を迎えます。鹿児島県の薩摩半島北西部に位置し、日本三大砂丘の一つである吹上浜の北端にあり温暖な気候と豊かな自然に恵まれています。

歴史的には、金山や遠洋まぐろ漁業が栄え、また幕末の薩摩藩が鎖国体制下で密かにイギリスに派遣した薩摩藩英国留学生の渡欧地や徐福伝説ゆかりの地として知られています。

特産品としては、焼酎、さつま揚げ、まぐろラーメン、サワーポメロ（柑橘類）があります。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 安全就業委員会の開催

理事1名、事務局職員1名と、それぞれ各職種から選出された会員8名の委員で構成し、事故の発生状況や安全対策についての会議を開催しています。

(2) 安全パトロールの実施

年間4回の安全パトロールを実施しています。剪定、除草、草払い、清掃等屋外作業の現場を中心に、安全就業委員がチームを組んで巡回し、就業現場に応じ飛散防止、転倒予防、熱中症対策等の安全対策が実施されているか点検を行い、安全就業の意識向上が高まるよう繰り返し呼びかけています。

(3) 就業現場の巡回

職員が就業現場を日々巡回して、それぞれの現場で個別の状況に応じた対応が取れるよう心がけて、声掛け・安全確認を行っています。

(4) 安全講習会の開催

毎年1、2月の比較的余裕のある時期をみて、屋外作業を中心とした会員を対象にシルバーの理念や就業マナー、安全就業についての講習会を開催しています。毎回同じような内容になりますが、繰り返し言い続けることが大切という認識で開催しています。

また、毎年定時総会後に安全講習会を実施しており、今年は「就業時の応急手当講習」と題し、本市の消防署員の方々から熱中症を含む緊急時の対処方法及び救急車到着時までの救命処置の重要性や、呼吸の確認方法など、心肺蘇生法のポイントをわかりやすく教えていただきました。



3 今後に向けて

今回の表彰を全く予想しておらず、安全就業の取り組みとしてはまだまだ足りない状態で、このような場で発表させていただくことは非常に気が引けるのですが、とにかく「会員さんたちが明るく楽しく就業し、そして無事帰宅される」それだけを目指して、事故の減少に繋げていきたいと考えております。

センターの概要（令和6年度）

- ① 会員数 170人（男性119人、女性51人）
- ② 粗入会率 1.5%
- ③ 就業率 89.4%
- ④ 就業実人員 155人（請負・委任 152人、派遣事業 21人）
- ⑤ 就業延人員 14,200人日（請負・委任 12,955人日、派遣事業 1,245人日）
- ⑥ 契約金額 9,124万円（請負・委任 8,389万円、派遣事業 735万円）

公益社団法人 旭市シルバー人材センター（千葉県）

I 旭市の概要

旭市は、千葉県の北東部に位置し、市の南部は美しい弓状の九十九里浜に面し、北部には千潟八万石といわれる房総半島屈指の広大な穀倉地帯があります。

平成 17 年 7 月 1 日、旭市・海上町・飯岡町・千潟町が合併して誕生した本市は面積 130.47 km²、人口は 61,510 人（令和 7 年 4 月 1 日現在）で、東総地域の中核都市として今後の発展が期待されています。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 安全委員会

理事 3 名、委員 4 名、事務局職員 1 名の計 8 名で構成され、年 3 回開催しています。

委員会では、市内及び県内、全国の事故発生状況の報告を受け、事故防止についての共通理解を図っています。また、当該年度内の安全就業パトロールの計画や実施後の報告会を設けています。

(2) 安全就業パトロール

7 月から 12 月まで毎月 1 回、安全委員 2 名、事務局職員 1 名が抜き打ちで就業現場の巡回指導を行っています。巡回時に安全就業についての声掛けとともに、巡回チェックシートに保護具の使用や安全な就業の状況などを記録し、巡回後にそれらを基に反省会を行います。

(3) 安全就業標語の選定

年度末に安全就業標語を募集しています。寄せられた作品を委員会で協議し、選定された標語を次年度の安全就業スローガンとして、会員各自に安全就業への啓発を図っています。

(4) 研修会や講習会の実施

就業時の反省や技能の向上を目指して研修会及び講習会を実施しています。草刈り機などを製造しているメーカーの方を講師として招聘し、機械の扱い方や注意点などについて講義を受け、安全就業の心得を学んでいます。

3 今後に向けて

当シルバー人材センターの、「安全はすべてに優先する」という基本理念を日頃から会員が心掛け、就業途上及び就業中に怪我や事故のないことを目指していきたいと思います。



センターの概要（令和6年度）

- ① 会員数 200 人（男性 117 名、女性 83 名）
- ② 祖入会率 0.89%
- ③ 就業率 94.0%
- ④ 就業実人員 200 人（請負・委任 188 人、派遣 12 人）
- ⑤ 就業延人員 23,187 人日（請負・委任 20,174 人日、派遣 3,013 人日）
- ⑥ 契約金額 1 億 2,074 万円（請負・委任 1 億 1,011 万円、派遣 1,063 万円）

公益社団法人 若狭町シルバー人材センター（福井県）

I 若狭町の概要

若狭町は、2005年(平成17年)3月31日、三方郡三方町と遠敷郡上中町が合併して、三方上中郡若狭町として発足し、人口13,181人 4,926世帯 面積 178.49km²の福井県嶺南地域のほぼ中央に位置した町です。年縞博物館、縄文博物館、瓜割の滝、熊川宿、三方湖等の観光施設等や福井梅の産地でもあり、湖、河川、田園、山々に囲まれた自然豊かな地域です。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 安全・適正就業委員会の設置

理事3名、会員6名、事務局1名の計10名で構成。年3回安全・適正就業委員会を開催し、年間計画を策定し安全就業、事故防止に向け取り組んでいます。

(2) 安全・適正就業パトロールの実施

安全・適正就業委員会のメンバーで年4回以上、作業現場のパトロールを実施しています。

屋外作業でのヘルメットの着用等、定められた安全用具の着用、機器の使用等の確認を行っています。

(3) 安全就業かわら版の発行

令和4年度から、安全就業かわら版を毎月発行し会員へ配布して安全就業の啓蒙を行い、安全意識の高揚、基本動作の励行等、安全就業の徹底を図り事故防止に取り組んでいます。

(4) 安全就業研修会の開催

福井県連合安全就業指導員及び部外講師により、安全就業事故防止、交通安全事故防止、会員の健康増進等について、年1回安全就業研修会を開催し安全就業指導を行っています。

(5) 安全就業啓発標語の募集

全会員を対象に、安全就業啓発標語の募集を行い、最優秀賞1点 優秀賞2点を選考し、通常総会において表彰、披露を行っています。また、安全就業かわら版等に掲載し、会員の安全意識向上に向け取り組んでいます。



センターの概要(令和6年度)

- ① 会員数 243人 (男性 159人、女性 84人)
- ② 粗入会率 4.17%
- ③ 就業率 85.2%
- ④ 就業実人員 207人 (請負・委任 180人、派遣事業 27人)
- ⑤ 就業延人員 14,976人日 (請負・委任 12,687人日、派遣事業 2,289人日)
- ⑥ 契約金額 9,991万円 (請負・委任 8,164万円、派遣事業 1,827万円)

公益社団法人 阿南広域シルバー人材センター（長野県）

I 阿南広域の概要

当センターは、長野県の最南端に位置し、愛知県と静岡県に隣接する自然豊かな地域で、天竜川の東西に位置しています。

海拔300mから1,000m前後までの起伏に富む5町村で構成され、総人口約1万人、総面積約379km²、高齢化率37%～62%、平均51%と超高齢化地域ですが、管内には民俗芸能の宝庫と言われ、室町時代から受け継がれているお祭り等が数多くあり、地域社会の中心として在り続ける貴重な行事、神事を後世へと受け継いでいます。

なお、当センターは今年度が設立25周年の節目の年となっています。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 安全委員会

理事2名、会員6名、事務局1名で構成し、年3～4回開催しています。事業の実施計画や、使用機械の安全講習会の開催及び安全標語の募集・審査等を行い、会員の安全意識の向上を図っています。

(2) 安全パトロールの実施

主に、除草作業、剪定作業の現場パトロールを年4回程度実施しており、近年の事故状況及び熱中症予防等の注意喚起を行っています。

(3) 各種講習会の開催

事故の中でも作業機械による事故が多くなっている状況から、作業機械の手入れ方法や適正な運用方法について講習を行うこととしています。

また、ここ数年自動車の運転業務中の運転操作の誤りによる事故が多くなっていることから、地区の交通安全教育センターの「交通安全教室」を受講し、業務中はもちろん出勤途中も交通安全に努めています。



3 今後に向けて

この度の表彰を受け、役職員、会員一同更なる安全就業に努めることと認識を新たにしているところです。

事業実施計画には、「安全は全てに優先する」を基本として、「事故ゼロ」を目標に、安全・適正就業に努めることを掲げております。今後も目標を達成出来るよう、取り組んでまいります。

センターの概要（令和6年度）

- ① 会員数 288人（男性 173人、女性 115人）
- ② 粗入会率 5.5%
- ③ 就業率 84.4%
- ④ 就業実人員 243人（請負・委任 213人、派遣事業 99人）
- ⑤ 就業延人員 26,346人日（請負・委任 17,471人日、派遣事業 8,875人日）
- ⑥ 契約金額 1億2,633万円（請負・委任 7,839万円、派遣事業 4,794万円）

公益社団法人 春日井市シルバー人材センター（愛知県）

I 春日井市の概要

春日井市は愛知県北西部に位置し、名古屋市の北東に隣接する中核市です。人口は約30万人で、JR中央本線や名鉄小牧線、東名高速道路など交通網が発達し、名古屋へのアクセスも良好です。高蔵寺ニュータウンなどの住宅地が広がり、ライフタウンとして発展してきました。

平安時代の書家・小野道風の誕生伝説地とされ、「書のまち」として文化活動が盛んです。また、全国有数の実生サボテンの生産地としても知られ、特産品やイベントが人気です。自然豊かな公園や山々が点在し、住環境と利便性が調和した魅力ある街です。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 安全委員会

当センターでは、委員12名、職員2名の計14名からなる安全委員会を設置し、年6回開催しています。そこでは、傷害事故や賠償事故を報告し、その内容と原因を話し合い、事故の再発防止対策を検討しています。また、安全意識向上のため年2回発行する会報(4月・10月)に「安全だより」として状況報告をしています。

(2) 安全パトロールの実施

安全委員会全体での安全パトロールを年2回実施しています。その他、安全就業指導員2名による安全パトロールを月4回程度実施し、ヘルメットや安全帯といった保護具の着用の徹底を呼び掛けるなど、安全な作業手順の指導を行っています。

(3) 各種講習会の実施

刈払機取扱講習、剪定講習、応急手当講習、体力測定などを開催しています。会員の知識やスキルの向上を図るとともに、健康管理や安全に就業することの大切さについて考える場としても有用であると考えています。



3 今後に向けて

安全対策に終わりはありませんので、今後も会員に対して、作業時は常に周囲に気を配り、安全な作業手順を心がけるよう周知徹底し、「事故ゼロ」を目指して取り組んでまいります。

特に、年々厳しさを増す夏場の熱中症対策として、熱中症警戒アラート発表時には、会員専用サイトに注意文書を掲載して周知を図るとともに、屋外作業会員に対しては、作業時間の短縮を促すなど、熱中症の予防に注力していきます。

センターの概要(令和6年度)

- ① 会員数 783人（男性 556人、女性 227人）
- ② 粗入会率 0.8%
- ③ 就業率 91%
- ④ 就業実人員 713人（請負・委任 457人、派遣事業 309人）
- ⑤ 就業延人員 91,978人日（請負・委任 54,697人日、派遣事業 37,281人日）
- ⑥ 契約金額 5億1,896万円（請負・委任 3億906万円、派遣事業 2億991万円）

公益社団法人 名古屋市シルバー人材センター東部支部（愛知県）

I 名古屋市の概要

名古屋市は、今から400年余り前に徳川家康がこの地に築城を始めて以来、徳川御三家筆頭・尾張藩の城下町として栄えてきました。1889年に市制が施行され、現在は人口約232.9万人、広さ約326.4km²、16の区で構成されています。市役所は名古屋城を望む中区三の丸にあります。市内には名古屋城のほか、熱田神宮、桶狭間古戦場、中村公園など三英傑（織田信長・豊臣秀吉・徳川家康）ゆかりの地がたくさんあります。

また、名古屋友禅や有松・鳴海絞などの伝統産業も数多く、ひつまぶしや味噌煮込みうどんなどの「名古屋めし」も有名です。2026年にはアジア競技大会・アジアパラ競技大会が開催されます。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 安全・適正対策委員会

当センター全体の安全・適正委員会のほか、東・西・南・北の各支部にも安全・適正対策委員会が設置され、東部支部では会員8名、事務局2名の委員で構成されています。委員会では、発生した事故（傷害・賠償・労災）について、事故報告書や現場の写真をもとに原因分析と再発防止策を検討しています。この委員会での意見などをもとに、会員に向けて啓発活動を行っています。

(2) 安全パトロールの実施

東部支部では、毎年7月から12月にかけて、会員と事務局の委員5~6名で安全パトロールを実施しています。現場の作業環境や作業方法に問題がないかチェックし、必要に応じて発注者や就業会員から聞き取りも行います。パトロールの結果は安全・適正対策委員会で共有され、安全就業の推進に活用されます。



(3) 地域班や職群班での安全就業の啓発

小学校区を基本とした会員組織である地域班での会議や、植木手入れ、除草、介護スタッフ、家事援助、駐輪場管理などの職群班での会議において、事故事例を紹介し、注意喚起とともに会員同士でも再発防止策を検討してもらっています。

3 今後に向けて

転倒事故のほとんどは骨折を伴っており、せっかくの就業が継続できないだけでなく、会員の私生活にも大きな影響を与えます。引き続き、会員に対して転倒予防の行動と、自転車を運転する際のヘルメット着用を呼び掛けていきます。また、夏から秋にかけては熱中症予防も重要な課題となります。「熱中症は、いつでも、どこでも、誰でも起こり得る」という意識づけを進めます。

この度の受賞を励みに、一層の安全就業を推進し、傷害・賠償・労災とも事故ゼロを目指して取り組んでまいります。

センターの概要（令和6年度・名古屋市全体）

- ① 会員数 7,801人（男性 4,770人、女性 2,994人、未回答 37人）
- ② 粗入会率 1.08%
- ③ 就業率 70.2%
- ④ 就業実人員 5,177人※（請負・委任 4,631人、派遣事業 693人）
※請負・委任と派遣事業の両方で就業した147人を除く
- ⑤ 就業延人員 602,016人日（請負・委任 504,005人日、派遣事業 98,011人日）
- ⑥ 契約金額 28億821万円（請負・委任 23億4,058万円、派遣事業 4億6,763万円）

公益社団法人 犬山市シルバー人材センター（愛知県）

I 犬山市の概要

犬山市は、愛知県の最北端に位置し、国宝犬山城や城下町、木曽川の鵜飼、入鹿池など、多くの観光資源を有しています。

市の西部は濃尾平野の一部をなし、市街地、農地、工業地として利用され、市の北を流れる木曽川の一帯は名勝に指定されており、1300年の歴史を誇る伝統的な鵜飼も行われています。東部の丘陵地は、緑豊かな里山が広がり、国の天然記念物に指定されているヒトツバタゴの自生地や人工池の入鹿池が所在します。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 安全委員会

当センターでは、理事2名を含めた会員4名と職員1名の計5名からなる安全委員会を設置し、年間スケジュールに基づき3カ月に1度の頻度で安全委員会を開催しています。委員会内では都度、時期毎に気を付けるべきことを確認し、センターの機関誌等で周知しています。また、7月～3月の期間において、原則毎月1回作業現場へ訪問する形でパトロールを行っています。

(2) 免責額・ペナルティ制度について

事故の再発防止意識を持ってもらうため、1万円以上の賠償責任事故を起こした会員に、免責額として1万円の徴収を行っています。また、免責額とは別にペナルティ制度を設けており、賠償責任事故を起こした会員の事故が、安全委員会にて悪質と判断された場合は、免責額とは別に罰則金2万円を徴収することとしています。

(3) 一人就業の原則禁止

除草作業での一人就業を原則禁止としています。特に夏場における熱中症対策の観点から、グループ就業を行い、安全就業に努めています。

(4) 交通安全教室の実施

年に1回、地元の警察署に依頼し、交通安全教室を開催しています。とくに愛知県は交通事故が多いこともあり、車の運転や、自転車の運転で気を付けるべきことを重点的に指導していただいている。

(5) 8月屋外作業の原則禁止

主に除草・剪定作業における、8月の就業を原則禁止としています。また屋外作業における、夏季の時期は、受注件数を減らすよう努めています。



3 今後に向けて

この度の表彰を受け、今後さらに安全就業の徹底に努めたいと思っております。また、全会員の健康状態の把握、夏場就業のさらなる対策を図るとともに、事故ゼロを目指した取り組みを、センター役職員・会員が一丸となって励んでいく所存です。

センターの概要(令和6年度)

- ① 会員数 633人（男性 366人、女性 267人）
- ② 粗入会率 2.51%
- ③ 就業率 76.5%
- ④ 就業実人員 484人（請負・委任 484人、派遣事業 38人）
- ⑤ 就業延人員 52,157人（請負・委任 48,697人、派遣事業 3,460人）
- ⑥ 契約金額 2億3,677万円（請負・委任 2億1,453万円、派遣事業 2,224万円）

公益社団法人 鈴鹿市シルバー人材センター（三重県）

I 鈴鹿市の概要

鈴鹿市は、東に伊勢湾、西に鈴鹿山脈と恵まれた自然環境の中にある、自動車産業など数多くの企業が立地し、伊勢湾岸地域有数の内陸工業都市として発展してきました。また、農業においても、恵まれた豊かな大地で、茶や花木をはじめ、水稻などの生産が活発に行われ、農業と工業がともに成長した「緑の工都」として現在に至っています。

また、F1が開催されるまちとして、内外に広く知られています。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 安全・適正就業委員会

理事2名、職群班選出会員3名及び事務局職員2名の計7名からなる、安全・適正就業委員会を設置しています。委員会は、年4回開催し、事業計画の決定、事故分析と事故防止対策の検討を行っています。

(2) 安全パトロールの実施

年に6回、草刈り作業及び剪定作業を中心にパトロールを実施しています。パトロールでは、現場の安全措置の状況、就業状況などを確認するとともに、リーダーから安全就業の取り組み状況について聞き取りを行い、改善点がある場合はその場で指導を行っています。

(3) 飛び石事故の防止

草刈り作業時の飛び石事故については、毎年発生しており、賠償金額も高額となってきたことから、安全・適正就業委員会で検討を行った結果、飛び石事故対策として、高刈りの実施（肩掛式刈払機に3c mのジスライサーの取り付け）、上下逆回転ハサミ刈り刃（カルマーナ刃）の使用、飛び石防護ネット設置の徹底を重点的に取り組むことにしています。

(4) 各種講習会の開催

草刈り安全講習会では、乗用ハンマーナイフ等の使用方法やメンテナンス方法についての講義を行うとともに、事故状況の報告を行い、特に、飛び石事故撲滅に向けて高刈り等に取り組むよう周知徹底しています。



剪定従事者安全講習会では、熱中症予防及び事故防止について講習を行っています。

その他、健康や介護予防に関する講習会を開催し、会員の健康増進を図っています。

3 今後に向けて

今回の優良賞受賞を契機にして、さらに飛び石事故ゼロに向けて重点的に取り組んでいくとともに、会員が1日でも1年でも長くシルバー人材センターで活躍できるよう、転倒予防等の傷害事故の防止と健康維持に努めてまいりたいと考えています。

センターの概要(令和6年度)

- ① 会員数 716人（男性 405人、女性 311人）
- ② 粗入会率 1.1%
- ③ 就業率 93.9%
- ④ 就業実人員 672人（請負・委任 449人、派遣事業 272人）
- ⑤ 就業延人員 91,136人日（請負・委任 57,697人日、派遣事業 33,439人日）
- ⑥ 契約金額 4億8,748万円（請負・委任 3億2,152万円、派遣事業 1億6,596万円）

一般社団法人 明石市シルバー人材センター（兵庫県）

I 明石市の概要

明石市は、東経135度の日本標準時子午線上にあり、明石海峡をはさんで淡路島を眼前に臨むことができます。気候は温暖で、古くは万葉歌人柿本人麻呂によって多くの歌が詠まれた風光明媚な地です。

兵庫県では4番目の市として誕生した明石市は、現在人口は県内で5番目であり、複数の「兵庫県住みみたい街ランキング」で2位に選ばれています。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 安全・適正就業委員会の開催

理事4名、会員7名で構成する委員会を設置し、年4回程度開催しています。

安全就業に対する取り組みとしては、毎年度、安全・適正就業推進計画を立て、事故ゼロを目指した活動に取り組むとともに、事故が起こった場合には原因の究明や事故防止の対策を講じるなど、安全対策の周知徹底に努めています。

また、安全スローガンを募集したり、連続無事故の目標日数を掲げるなど、会員自らが安全について意識するよう、安全意識の向上を図っています。

(2) 安全パトロールの実施

安全・適正就業委員によるパトロールを毎月1回、植木剪定・除草作業を中心に実施しています。

チェックシートによる点検を行い、不備があった場合はその場で指摘・指導するとともに、委員会で共有して安全対策を検討し、他の会員にも周知して安全啓発を行っています。



(3) 技能講習会の受講

会員の技能向上と安全就業の徹底を図るため、植木剪定に従事する会員にはチェーンソー取扱講習を、除草に従事する会員には刈払機取扱講習を外部の教習所で受講してもらうとともに、連合会主催の刈払機安全講習への参加を促すなど、安全確保に繋げています。

(4) 事務局通信（会報誌）等による啓発活動

毎月1回発行している事務局通信に、「安全パトロールの報告」、「事故事例と件数の報告」、「熱中症の注意喚起」、「交通安全だより」などを掲載して、全会員に安全就業の啓発をしています。

3 今後に向けて

センター設立から44年、初めての受賞となります。これまでの安全に対する地道な取り組みが実を結び、表彰を受けることができたのだと思います。しかし、安全対策に終わりはありません。今後とも事故の防止に努め、事故撲滅を目指します。

センターの概要（令和6年度）

- ① 会員数 1,355人（男性 849人、女性 506人）
- ② 粗入会率 1.38%
- ③ 就業率 82.8%
- ④ 就業実人員 1,138人（請負・委任 1,052人、派遣事業 86人）
- ⑤ 就業延人員 149,388人日（請負・委任 138,175人日、派遣事業 11,213人日）
- ⑥ 契約金額 7億4,134万円（請負・委任 6億7,411万円、派遣事業 6,723万円）

公益社団法人 小野市シルバー人材センター（兵庫県）

I 小野市の概要

小野市は、兵庫県南東部に位置し、県内最大の加古川の下流域にあり、大阪、神戸といった阪神間まで車で約1時間、豊かな自然と瀬戸内式の暖かな気候に恵まれ、一年を通じて四季折々の花々や大自然が私たちの心を和ませてくれます。

国宝淨土寺などの歴史遺産を有し、春には西日本最大級4km650本の桜の回廊「おの桜づつみ回廊」、夏には大輪の花を咲かせる市花「ひまわり」、冬には県立自然公園「鴨池」に飛来する鴨、ハイカーが縦走を楽しむ「小野アルプス」と癒しの温泉「白雲谷温泉ゆびか」など魅力たっぷりです。東播磨道の整備で交通の利便性がさらに高まっており、企業から選ばれ、先端企業が集積する都市でもあります。

2 安全就業への取り組みについて

(1)安全・適正就業委員会の開催

会員5名、職員3名、推進員1名（内理事2名含む）で構成し、安全適正就業に関し課題や対策等の協議を行うほか、重大案件が発生した場合、委員長の判断により緊急の委員会を開催しています。令和6年度は、特に安全確保に必要な資材の整備、利用への啓発を行いました。

(2)安全パトロールの実施

委員会メンバーによるパトロールを実施しています。剪定作業場・草刈り作業場・工場等では、「安全・適正就業チェック表」に基づいて行い、その他会員の皆さんのが就業場所では、作業状況・環境等の確認を行っています。

(3)安全講習会の開催

定期的に安全講習会を開催しており、直近では剪定作業従事者、草刈り作業従事者、草引き作業従事者を対象に実施しました。データに基づく事故の傾向を学ぶほか、会員の接遇・ハラスマントへの対応についての講習を行いました。また、剪定講習会を実施し、3日にわたる講義と実際の現場での実技講習により、基礎知識・専門知識の習得を目指し、特に作業上の安全対策について重点的に学んでいただきました。

また、交通安全に対する取り組みとして、毎年、市・警察署・交通安全協会の主催、小野自動車教習所協賛による「シルバーリーダースクール 交通安全講習会」を実施し、座学および実車による研修を行っています。



(4)安全就業だより等による啓発活動

「安全就業・適正就業だより」を毎月発行し、安全や健康への取り組みなど定期的に掲載し、会員の意識向上を図っています。

また、パソコンやスマートフォンを利用した会員との連絡用ツール「Smile to Smile」の登録率が会員の70%を超え、安全対策についても活用しています。例えば熱中症に関する注意喚起等、早急にお知らせすべき案件が発生した場合に利用し、迅速な情報提供により、安全な就業につなげています。

3 今後に向けて

この度の受賞を受け、会員の安全に対する意識を高め、「事故ゼロ」をめざし取り組んでまいります。

センターの概要（令和6年度）

- ① 会員数 624人（男性 407人、女性 217人）
- ② 粗入会率 3.7%
- ③ 就業率 84.5%
- ④ 就業実人員 527人（請負・委任 482人、派遣事業 45人）
- ⑤ 就業延人員 60,853人日（請負・委任 5,529人日、派遣事業 5,562人日）
- ⑥ 契約金額 3億3,187万円（請負・委任 3億269万円、派遣事業 2,918万円）

公益社団法人 岩美町シルバー人材センター（鳥取県）

I 岩美町の概要

岩美町は鳥取県の最東北端に位置しています。日本海に面する東西およそ 15 kmのリアス式海岸を総称して「浦富海岸」と呼んでおり、「山陰海岸国立公園」に指定されています。また、世界ジオパークネットワークに加盟する「山陰海岸ジオパーク」の一部として登録されています。海岸部のほかにも、岩井温泉やカキツバタ群落、旧岩美鉱山なども「山陰海岸ジオパーク」に含まれており、岩美町はまち全体がジオパークとなっています。

人口は1万1千人程ですが、「海と山と温泉」の自然豊かな町です。また、冬の味覚の王者である松葉がにの漁獲量日本一を誇る町でもあります。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 安全パトロールの実施と安全・適正就業開拓推進員のスキルアップ

当センターでは、安全・適正就業開拓推進員を2名配置しています。推進員による巡回パトロールを月2回行い、就業現場を回って作業内容の確認と、問題点があれば指摘・指導を行っています。

また、連合会が主催する安全適正就業研修会への参加や、連合会による安全パトロールに同行するなど、安全・適正就業開拓推進員のスキルアップを図っています。また、日々職員による現場の巡視と声掛けを行い、安全就業の徹底を呼び掛けています。

(2) 安全意識の向上、取り組み

2025年6月から義務化となった熱中症への対策や、事故事例の載った冊子の配布等、安全就業への意識付けに努めています。また、飛び石による事故等が増加している事を踏まえ、飛び石防護ネットを作成し、必要な現場には持参して使用するよう周知徹底しています。

また、入会時には必ず安全・適正就業指針をお渡ししています。LINE や Smile to Smile の登録を推進し、それを活用して会員への連絡事項はもとより、熱中症警戒アラートの発令時やマダニ・蜂・蚊に対する予防や対策などを発信して注意喚起を行っています。就業中はもちろんですが、就業時以外の体調管理や外出時等の移動中(自動車・自転車・徒歩)の安全への注意喚起をし、体調不良による事故が発生しないように啓発しています。



3 今後に向けて

「安全は全てに優先する」。この度の表彰を受け、さらに気を引き締めて、事故ゼロを目指し、日々精進いたします。

センターの概要(令和6年度)

- ① 会員数 154 人 (男性 97人、女性 57人)
- ② 粗入会率 3.16%
- ③ 就業率 71%
- ④ 就業実人員 110 人
- ⑤ 就業延人員 6680 人日
- ⑥ 契約金額 4,010 万円

公益社団法人 下関市シルバー人材センター（山口県）

I 下関市の概要

歴史と海峡の街一下関市は本州の最西端に位置し、関門海峡、周防灘、響灘と三方が海に開かれ、対岸の福岡県へは、関門橋やトンネルでつながり、船や車、電車で渡れるほか、歩行者用海底トンネルで歩いて渡ることもできます。

歴史としては、源平最後の合戦・壇ノ浦合戦が行われ、江戸時代・幕末には、倒幕・維新へ導く功山寺拳兵があり、明治時代の下関条約締結など様々な歴史の転換点となる出来事がここ下関を舞台に繰り広げられてきました。

食では、「ふく」をはじめ、新鮮な海の幸・山の幸をお楽しみ頂ける、歴史や自然の幸が豊かな街です。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 既存の取り組みの継続と改善

年10回の安全巡回指導、剪定・草刈り講習会での安全就業指導、安全管理委員会・安全対策会議での県内事故事例の共有など、従来実施している取り組みについては継続的に実施し、その中で改善すべき点は改善策を講じています。

改善策1:巡回指導先を直近の事故発生グループとする。

改善策2:講習会で飛び石の実践等、安全面の座学を実施する。

改善策3:安全対策員の入れ替えを積極的に行い、事故が起こっていることを多くの会員に実感してもらう。

(2) 新たな取り組みの実施

会員及び職員のアイデアを聞き、新たな取り組みを積極的に行ってています。

取り組み1:無事故表彰制度（年間を通して損害賠償事故・傷害事故のなかったグループを表彰する）

取り組み2:防護ネット・両刃式刈払機・笛など、センターより貸し出しを行う。

取り組み3:危険性の高いと予測される継続就業先の洗い出しを行い、継続先でも作業方法の見直しを行う。

取り組み4:「断る」勇気を持つ。繁忙期中の急な期限付き依頼などはお断りする。

取り組み5:熱中症対策として、就業時間を午前中に変更したり、熱中症対策グッズを貸し出すなど、口頭での注意喚起だけで終わらせない具体的な対策を実施する。

3 今後に向けて

会員・職員が安全就業の徹底を図り、「事故ゼロ」を目指して取り組んでまいります。

長期的には、今後さらに加速が予想される会員の高齢化を踏まえ、請負業務の主である草刈り・剪定に代わる職種の探求が課題であり、それが将来的な安全対策にも繋がると考えています。



センターの概要(令和6年度)

- ① 会員数 1,250 人（男性 815 人、女性 435 人）
- ② 粗入会率 1.2%
- ③ 就業率 75.8%
- ④ 就業実人員 948 人（請負・委任 777 人、派遣事業 222 人）
- ⑤ 就業延人員 100,777 人日（請負・委任 71,775 人日、派遣事業 29,002 人日）
- ⑥ 契約金額 6 億 762 万円（請負・委任 4 億 4,414 万円、派遣事業 1 億 6,348 万円）

公益社団法人 さつま町シルバー人材センター（鹿児島県）

I さつま町の概要

さつま町は、県北西部に位置する自然豊かな町で、面積は約 304 km²。町の中心を川内川が流れ、北部には紫尾山（標高 1,067m）がそびえます。2005 年に宮之城町・鶴田町・薩摩町が合併して誕生しました。農林業が盛んで、特に子牛市場は全国的に有名です。竹林が多いさつま町では、たけのこの産地でもあります。その他、黒毛和牛や薩摩西郷梅、芋焼酎など、自然の恵みと伝統が息づく魅力的な品々がそろっています。

シルバー事業においては、少子高齢化、人口減少が進展する中、組織の基盤となる会員数、受託・派遣事業の契約額にあっても、微増ながらも増加傾向となっており、センターと会員、行政や関係機関との連携をとりながら着実に事業を進めています。

2 安全就業への取り組みについて

毎年度策定する安全適正就業推進計画に基づき、安全適正就業の推進に取り組んでいます。

当該計画は、「予防」・「維持管理」・「事後」・「普及啓発」の4つの観点で策定しており、予防的観点としては、研修の実施、危険回避のための受注制限、KYT 活動、健康管理が含まれ、安全に作業をするための知識や意識の向上、日頃からの体調管理を行うことで事前に危険回避を図ることをねらいとしています。

予防的観点からの安全基準等がきちんと維持・機能しているか、これを「維持管理的観点」とし、毎月 20 日を「安全の日」と定め、安全適正就業推進委員会による安全パトロールや安全適正就業に係る研修等を実施しています。安全の日以外にも不定期で安全パトロールを実施することもあります。

実際に事故が発生した場合の対応が「事後の観点」となりますが、事故が発生した場合、関係者による原因分析（事情聴取・現場検証）をしっかりと行うことで事故原因を明確にし、分析に基づく効果的な対策を確立します。

最後に「普及啓発的観点」ですが、会員や発注者への適正就業ガイドラインの周知、各種広報誌や SNS による安全適正就業に係る情報提供、安全就業スローガンの募集と活用、安全就業記録版による事故発生状況等の可視化が挙げられます。令和 7 年度の安全就業スローガンは「安全は正しい手順の積み重ね」。安全に対する基本的な考え方と、安全意識の高まりを感じられるスローガンであると評価しています。

3 今後に向けて

この度の表彰は、当センターが一丸となって取り組んできた結果です。今後も、会員の安全な就業を高度の公共性・公益性のあるセンター運営の根幹とするため、引き続き安全適正就業の推進に全力を挙げて取り組みたいと思います。



センターの概要（令和6年度）

- ① 会員数 307 人（男性 191 人、女性 116 人）
- ② 粗入会率 3.26%
- ③ 就業率 71.7%
- ④ 就業実人員 250 人（請負・委任 220 人、派遣事業 70 人）※請負と派遣の重複あり
- ⑤ 就業延人員 29,157 人日（請負・委任 22,515 人日、派遣事業 6,642 人日）
- ⑥ 契約金額 1 億 7,945 万円（請負・委任 1 億 4,058 万円、派遣事業 3,887 万円）

公益社団法人 和泊町シルバー人材センター（鹿児島県）

I 和泊町の概要

鹿児島市から南へ 552km、沖縄県那覇市から北へ 188km、太平洋と東シナ海を前後に接するサンゴ礁の島、沖永良部島の北東部に位置する和泊町です。平均気温が22度の温暖な気候と豊かな自然、温かい島んちゅの笑顔が溢れる、とても素敵なまちです。

4月下旬には、約12万輪のえらぶゆりが咲き誇り、圧巻の光景は多くの人々を魅了します。また、明治維新のカリスマ西郷隆盛が「敬天愛人」の思想を確立した地として全国的に有名です。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 安全委員会の設置・運営

理事・職員・会員で構成された委員会を通じて、ヒヤリ・ハット事例の共有、事故事例および原因の分析、再発防止策の検討、安全意識の向上を図り、各種講習会の計画・実施を推進しています。

※理事が班長を務めると波及力があります。

(2) 現場パトロールと迅速なフィードバック

安全委員会による安全基準の順守状況を確認する定期的な巡回に加え、事務局職員が現場間を移動する日常業務の中で、細かな安全上の問題をいち早く察知・対応するため、無通告の現場巡回を実施しています。(服装や保護具、作業方法の確認とその場での指導、飛び石事故や熱中症などへの注意喚起など)。これにより、多角度からの視認で、作業環境の安全性をさらに向上させることを図っています。

※職員間での情報共有があるため、担当しない現場でも俯瞰的に捉えることができます。

(3) 就業前ミーティングの徹底

危険予知活動(KYT)を取り入れ、作業内容・体調・機材・服装などを班内で確認し、事故防止に努めています。また、事故の重大化を防ぐため、原則として一人就業を禁止し、徹底を図っています。

加えて、作業負担の分散化や安全呼称の実施も目的としています。

(4) その他に…

健康管理と災害・天候リスクへの対応として、健康診断の受診奨励や熱中症・蜂刺され対策などを継続的に強化しています。事故が発生した際には、臨時安全委員会を開き、速やかに会員へ事故状況を通知するとともに、事故防止の注意喚起を SNS や掲示板等で繰り返し発信し、周知徹底を図っています。

○近年の実績では、傷害事故は 0 件、損害賠償事故も 3 件に抑えていました。



センターの概要(令和6年度)

- ① 会員数 253 人（男性 113 人、女性 140 人）
- ② 粗入会率 9.8%
- ③ 就業率 72.3%
- ④ 就業実人員 190 人（請負・委任 183 人、派遣事業 73 人）
- ⑤ 就業延人員 18,860 人（請負・委任 15,352 人、派遣事業 3,508 人）
- ⑥ 契約金額 1億 3,878 万円（請負・委任 1億 1,610 万円、派遣事業 2,268 万円）

公益社団法人 富山県シルバー人材センター連合会

I 富山県の概要

日本海側のほぼ中央に位置し、県庁所在地の富山市を中心として、県の東西両端までどちらも車で1時間半と、コンパクトにまとまつた県と言えます。「天然の生簀」と言われる富山湾の味覚や、「立山黒部アルペンルート」、トロッコ列車で有名な「黒部峡谷鉄道」「世界遺産五箇山合掌集落」など観光地にも恵まれています。

シルバー事業においては、富山県内でも会員の高齢化が顕著となっており、草刈り作業や剪定作業など屋外作業の依頼が多く後継者の育成が課題となっておりますが、会員の多様化する就業ニーズに対応するべく就業機会の提供に努めています。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 安全・適正就業推進大会、安全・適正就業対策研修会の開催

安全強化月間に合わせ、7月に安全・適正就業推進大会を開催しています。また、3月には安全・適正就業対策研修会を行い、外部講師を招いて、特に屋外作業における安全対策について講義をして頂くとともに、各拠点センターから安全事例を発表してもらっています。

(2) 安全・適正就業対策推進委員会の開催

県内の事故発生状況の報告、事故事例の共有、安全対策の確認や再発防止策意見交換などを行っています。

また、連合として作業別安全就業モデルを作成し、拠点センターで活用をお願いしております。

(3) 安全リーフレットの発信

年6回「転落事故防止」「飛石事故防止」「ハチ刺され防止」「熱中症予防」「転倒事故防止」などのリーフレットを作成し安全に対する啓発活動を行っています。

(4) 安全パトロール・講習会の実施

県下の拠点センターと合同で安全パトロールを20回(令和6年度実績)実施、安全指導や安全意識の徹底に努めています。講習会は8回実施(令和6年度)し県内外の事故事例に係る安全講習を行い、「安全なくして就業なし」の意識を持っていただくように何度も繰り返しお願いしています。



3 今後に向けて

年々高齢化が進み、安全・適正就業においてはいわゆる頑固さが目立ち、作業効率ばかりを重視する傾向が強まっています。しかし、粘り強く繰り返し安全就業の意識を高めていくことが必要です。令和4年度に43件も発生した草刈り作業における飛び石事故が令和5年度、6年度ともに29件と少ない件数で推移したのも、このような取り組みが会員の中で浸透してきた成果ではないかと考えています。「安全なくして就業なし」の意識を今後も伝えていきたいと思います。

シルバー連合の概要(令和6年度)

- ① センター数 15団体 (国庫補助対象団体14団体、国庫補助対象外団体1団体)
- ② 会員数 7,118人 (男性 4,236人、女性 2,882人)
- ③ 粗入会率 1.8%
- ④ 就業率 85.6%
- ⑤ 就業実人員 6,093人 (請負・委任 5,304人、派遣 1,390人)
- ⑥ 就業延人員 675,254人日 (請負・委任 537,029人日、派遣 138,225人日)

公益社団法人 福島県シルバー人材センター連合会

I 福島県の概要

福島県は東北地方の南端に位置し、面積は全国第3位。県内は浜通り・中通り・会津の3地域に分かれ、地形や気候、文化が多様です。浜通りは太平洋に面し温暖で、海産物や工業が盛んです。中通りは交通の要所で、果物や野菜の産地として知られます。会津は歴史と伝統が息づく地域です。郷土料理や赤べこ、喜多方ラーメンなどの文化も豊かで、自然・産業・歴史が調和する魅力ある県です。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 安全・適正就業委員会

委員会は、センターの理事長、事務局長、および連合会事務局の安全・適正就業業務担当者で構成され、年3回開催しています。委員会では、主に以下の事項について、取り組み状況の報告および意見交換を行っています。

- ・県内における事故発生状況の把握と再発防止対策の検討、策定
- ・安全・適正就業における年度実施計画の協議、策定
- ・安全・適正就業推進大会の開催および安全パトロールの実施計画の協議

(2) 安全就業促進大会

当連合会では毎年、「安全・適正就業強化月間」にあたる7月に、安全・適正就業推進大会を開催しています。大会では、連合会独自の安全表彰として、日常的な事故防止への取り組みが評価されたセンターを表彰しています。また、3年に1度、安全標語の募集を行い、優秀賞および佳作賞の表彰を実施しています。

さらに、外部講師を招いて「高齢者の安全対策」をテーマに、安全および適正就業に関する研修を実施し、参加者の安全意識の向上と適正就業への理解を深めています。



(3) 安全就業パトロール

令和6年度は、「安全・適正就業対策実施計画」において「墜落・転落、転倒事故の防止対策」が重点項目として位置づけられていたことから、安全就業パトロールを県内6センターで実施しました。対象は、令和5年度に「墜落・転落、転倒事故」が発生したセンターを中心とし、該当センターの担当職員への聞き取りや現場確認等を行い、必要な指導を実施しました。

3 今後に向けて

このたび「安全就業連合優良賞」を受賞できましたことは、当連合会の安全への取り組みをご評価いただいた結果であり、大きな励みとなっています。今後も各センターとの連携を一層強化し、安全意識のさらなる向上に努めてまいります。

シルバー連合の概要（令和6年度）

- ① センター数 43 団体（国庫補助対象団体 25 団体、国庫補助対象外団体 18 団体）
- ② 会員数 12,035 人（男性 7,958 人、女性 4,077 人）
- ③ 粗入会率 1.7%
- ④ 就業率 82.5%
- ⑤ 就業実人員 9,934 人（請負・委任 8,955 人、派遣事業 1,751 人）
- ⑥ 就業延人員 1,020,726 人日（請負・委任 848,375 人日、派遣事業 172,351 人日）

公益社団法人 新潟県シルバー人材センター連合会

I 新潟県の概要

新潟県は日本海に面しており、北東から南西へ細長い領域と海岸線を持ち、離島の佐渡島・粟島も擁しています。人口は2,077,429人(R7.6.1)、面積約12,584km²で全国5位の広さです。

日本三大河川でもある信濃川や、日本百名山に選ばれる山々もあり豊かな自然環境に恵まれ、米と日本酒をはじめとする美味しい食文化や、全国的に有名な長岡花火や観光スポットも豊富です。また、上越・北陸新幹線や関越自動車道などの交通アクセスの良さを背景に「住んでよし、訪れてよしの新潟県」を目指しています。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 安全・適正就業委員会の開催

連合会理事2名、委員(県内センターの事務局長)5名、連合会事務局長の計8名の構成により、毎年度の「安全・適正就業推進計画」の策定や事故状況の把握とその分析等を行い、安全・適正就業対策の徹底を推進しています。

(2) 安全・適正就業推進研修会の開催

毎年6月に県内シルバー人材センターの安全・適正就業推進員及び担当職員を対象に安全・適正就業推進研修会を実施しています。令和7年度は6月25日に新潟労働局労働基準部健康安全課から講師を迎え、高齢者の労働災害の発生状況や災害防止活動、熱中症対策について講演いただき、81名が参加しました。

研修会の最後に、参加者全員で安全就業スローガンの唱和を行い、事故ゼロを目標に安全対策に取り組む決意を新たに閉会しました。

(3) 安全・適正就業パトロールの実施

パトロールの実施に当たっては、連合会が委嘱した「当該受検センター以外の指導員」と連合会職員が一緒に行います。毎年5センターで計画し、令和7年度は8月までに3センターで実施しました。同じ立場であるセンターの巡回指導員がパトロールを行うことにより、いつもとは違う視点で作業現場を確認することができ、形式的なパトロールの払拭やお互いが気づかなかった注意点など、各センターにおける安全就業に繋がる機会となっています。

意見交換では、今年の6月1日に労働安全衛生規則が改正された熱中症対策義務化について、センターでどのような対策をとっていくべきか話し合われるなど、情報交換の機会にもなっています。引き続き安全・適正就業に取組んでいきます。



3 今後に向けて

① 安全就業について

- ・受注時の安全確認、危険・有害作業を受注しない等による安全対策を徹底する。
- ・発生事故原因の特定・検証を行い、再発防止確認と、その情報を会員等へ周知、注意喚起を行う。
- ・健康診断受診の勧奨やフレイル予防講習会等を実施し健康管理対策の推進を行う。
- ・安全啓発活動、安全パトロールの強化等により意識の共有化を図り組織一体で取り組む。

② 適正就業について

- ・自主点検表による契約の見直し及び確認を行い、法令遵守を徹底する。
- ・適正就業ガイドラインに基づく適正就業研修等を実施し、職員の実務判断能力の向上に取り組み、適正就業を推進する。

シルバー連合の概要(令和6年度)

- ① センター数 21団体 (すべて国庫補助団体)
- ② 会員数 19,531人 (男性 12,099人、女性 7,432人)
- ③ 粗入会率 2.3%
- ④ 就業率 総合 81.8% (請負・委任 70.1%、派遣 63.5%)
- ⑤ 就業実人員 15,982人 (請負・委任 13,696人、派遣 3,967人)
- ⑥ 就業延人員 1,588,211人日 (請負・委任 1,216,102人日、派遣 372,109人日)

公益社団法人 愛知県シルバー人材センター連合会

I 愛知県の概要

日本列島のほぼ真ん中にあり、海と野山と都市がバランスよく構成され、また、工業製品出荷額が高い「モノづくり王国」でもあります。織田信長、豊臣秀吉、徳川家康と名だたる武将の出身地でもあり、観光としては金の鯱で有名な名古屋城、豊川稻荷などの文化史跡があります。味噌、鶏肉をベースにした様々な「名古屋めし」も近年人気が高いです。

2 安全就業への取り組みについて

(1) 安全・適正就業委員会の開催

県内各シルバー人材センターの安全・適正就業対策の組織的な推進を図るために、連合会において安全・適正就業委員会（委員14名：役員センターの事務局長）を年3回開催し、安全・適正就業対策事業実施計画等を策定しています。



(2) パトロールの実施

①安全・適正就業パトロール

毎年5月から12月の期間に、前年度未実施のセンター・支所32箇所（全64箇所のうち）を訪問し、当該年度の重点取り組み（令和7年度は「作業現場の事前確認による事故発生リスクの排除」）を中心に、安全・適正就業に対する取り組み状況を調査しています。なお、希望により他センターの安全・適正就業担当者等が同行する場合もあります。

②安全就業緊急パトロール

毎年1月から3月の期間に、当年度12月までに報告のあった傷害事故と損害賠償責任事故の合計が5件以上、且つ前年対比300%以上のセンター（前年度無事故の場合は当年度5件以上）を訪問し、再発防止策の取組状況等を調査しています。なお、長期入院等の重大事故や高額な損害賠償責任事故が発生したセンターも対象にしています。

(3) 安全・適正就業意識の普及啓発

①安全・適正就業推進員研修会の開催

各センター・支所における安全・適正就業対策事業が円滑に実施できるよう、また、安全・適正就業業務に必要な知識等の習得を図るため、各センター・支所の安全・適正就業推進員等を対象に研修会を開催しています。開催時期：4月末。開催方法：「Zoom」を使用したオンライン方式。

②安全・適正就業推進大会の開催

安全・適正就業推進強化月間に併せて、各センター・支所の安全・適正就業対策担当理事、担当者等に対して、安全・適正就業に対する意識の普及啓発を図るため、大会を開催しています。開催時期：7月上旬。参加方法：来場及びオンライン視聴。内容：前年度センター別事故発生状況及び前年度事故抑制センターの紹介、外部講師による講演、センター講演、安全・適正就業宣言。

(4) 安全・適正就業対策事業に関する情報の収集及び提供

各センター内で発生した事故情報を収集し、週報や半期報に事故発生状況を取りまとめ情報を提供しています。また、年度分を「愛知県内シルバー人材センター事故の状況」にまとめ、傷害事故及び損害賠償責任事故の再発防止に活用しています。

(5) 講習会等への講師派遣

各センターが開催する講習会等へ安全・適正就業パトロール指導員を派遣し、会員の安全・適正就業の推進を図っています。

3 今後に向けて

事故事例を見ていると「受注打診時（下見時）に、現場に存在しているリスクをしっかりと把握しておけば防げたのではないか」と感じるものが多く、また「モノで防げたのではないか」と感じるものも多いです。傷害事故・損害賠償責任事故ともに発生件数は高止まりしており、引き続き「現場調査」や「モノの活用」をはじめとする様々な対策に取り組んでいきます。

シルバー連合の概要（令和6年度）

- | | |
|---------|--|
| ① センター数 | 57団体（国庫補助対象団体 55団体、国庫補助対象外団体 2団体） |
| ② 会員数 | 35,625 人（男性 22,500 人、女性 13,052 人） |
| ③ 粗入会率 | 1.5% |
| ④ 就業率 | 83.2% |
| ⑤ 就業実人員 | 29,650 人（請負・委任 26,314 人、派遣事業 5,198 人） |
| ⑥ 就業延人員 | 3,361,449 人日（請負・委任 2,828,781 人日、派遣事業 532,668 人日） |